様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　８ 日現在

機関番号：３２６１２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ１０２１３

研究課題名（和文）倫理的看護実践の推進を目指したリーダー養成のための研修プログラム・教材の開発

研究課題名（英文）Development of training programs and educational materials for developing leaders to promote ethical nursing practice

研究代表者
宮脇　美保子（MIYAWAKI, Mihoko）

慶應義塾大学・看護医療学部（藤沢）・名誉教授

研究者番号：１０２６３４９３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、倫理的職場風土の醸成を支援するための効果的な研修プログラムを開発・実施し、その効果について検討することである。方法は、医療倫理及びサーバントリーダーシップを中心とした研修プログラムを3カ月に亘って5回実施し、その効果について研修を通して自身の看護実践がどのように変化したのか、参加者からのリポートをもとに、思考や行動の変化と周囲の反応について質的に分析した。分析の結果、相手を理解しようとすることで相手と対話できるような関係に変化した、リーダーシップがとれるスタッフを巻き込むことで仲間が増えた、研修を通して知ることの楽しさを再認識することができた、等の内容と同様の記述が多数あった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
中堅看護師は、継続教育の中で単発的な倫理研修は受講しているが、自身の経験に落とし込むまでには至っていない。しかし、本研究において、5回の研修プログラムで学んだ研究参加者は、学習ニーズも高く積極的に自身の看護実践を振り返り、行動変容するまでに至っていた。本研究の成果から、多くの医療機関において中堅看護師が一定の期間をかけて、倫理の基礎からケアリング、リーダーシップについて学ぶことができれば、「行動しつつ考える」ことの重要性を認識し、倫理的職場風土の改善に向けた強い動機付けとなり得る可能性が高く、学術的、社会的意義は大きい。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to develop and implement an effective training program to support the formation of an ethical workplace climate and to examine its effectiveness. The method was to implement a training program focusing on medical ethics and servant leadership for mid-career nurses, ask them to report how their own nursing practice had changed based on what they learned in the training, and qualitatively analyze changes in their thoughts, actions, and reactions of others. As a result, we found many descriptions similar to the following: "By trying to understand the other person, the relationship changed to one of dialogue," "By involving the staff in leadership, I gained more friends," and "Through the training, I rediscovered the joy of knowing. Through the training, participants gained skills to change the way they relate to others and experienced how servant leadership can be used to improve an ethical workplace climate.

研究分野：医療・看護倫理

キーワード：看護倫理　倫理研修　中堅看護師　サーバントリーダーシップ　質的記述的研究

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

看護師を対象とした臨床現場における倫理的問題についての調査はこれまで数多く行われてきた。具体的には、患者と家族間におけるニーズの相反、患者の利益 VS 営利主義、最善とはいえない医師の選択、優先される看護師の都合、といった問題がある。しかし、看護師は「これは患者の利益にならない」と直観的に感じたとしても、それを倫理的視点から論理的に他者に説明することに困難を要し、問題解決に向けてチームを巻き込んでいくための戦略をもっていないのが現状である。こうした背景には、中堅以上の看護師は、看護基礎教育において専門職としての倫理と責任について学習するカリキュラムはなく、臨床現場でも倫理的問題について率直に話し合える場が少ないこと等が考えられる。

このような現状を改善していくためには、従来の単発的な研修ではなく、倫理の基礎から倫理的リーダーシップのあり方に至るまで、セッションを継続的に実施することで、学んだ知識を実践で活用し、その過程を振り返るサイクルをつくることが重要である。

そこで、倫理的看護実践を推進できるリーダーを養成するための研修プログラムおよび教材を開発に取り組む必要があると考えた。

2.　研究の目的

倫理的看護実践を推進できるリーダーを養成するための研修プログラムおよび教材を開発し、その試行結果を質的に分析することで効果的なリーダー養成のあり方について検討する。

3.　研究の方法

関東圏内の A 総合病院に勤務している中堅看護師 13 名を対象に、3 カ月を期限として 2-3 週間おきに 5 回セッションを(各 3 時間)リモートで実施した。分析データは、研究参加者が毎回セッション終了後に提出したリポートである。分析方法は、各参加者が研修プログラム参加後における思考の変化、行動の変化と周囲の反応について記述している箇所を抽出し、セッション毎に研究参加者に共通してみられる変化に注目して検討した。

４．研究成果

(1) 研究参加者の高い学習ニーズ

成人を対象とした教育で重視されるのは、学習者の主体的かつ自発的な学習や学びの先にある実践である。本研修プログラムへの参加動機も、「倫理的志向にもとづいた人材育成や職場環境づくりをしたい」「実践における倫理の重要性を後輩に伝え、変化を起こしたい」「緊張が高い職場の雰囲気を変えたい」「リーダーシップを発揮して部署全体で倫理について考えたい」「倫理的リーダーとして看護の質の向上に関りたい」「忙しさや余裕のなさを免罪符に、仕方ないとしてしまう風潮を改善したい」といった記載が多く、主体的かつ自発的な学習姿勢が認められた。

こうした高い学習ニーズに応えるために、参加者には、知識を受け取るだけでなく、自分で深く考え、仲間とディスカッションした上で、実践で自身の課題を解決する方法を試行し、その過程についてリフレクトした内容をリポートしてもらった (Table1.)。

Table1. 研修プログラム

	研修内容
1st Session January	1. 看護専門職と看護 2. サーバントリーダーシップ
2nd Session January	1. 医療倫理の歴史的背景 2. 医療倫理の4原則 3. 倫理的問題の特定と対応
3rd Session February	1. 倫理的問題の事例検討 2. 倫理カンファレンスiにおけるファシリテーション
4th Session February	1. チーム医療と看護職 / 他職種 2. チーム医療と患者 /家族
5th Session March	1. 倫理的組織風土の醸成 2. 倫理的看護実践とケアリング 3. ユーモア

(2) 研修後の学びを意識した看護実践

参加者は、研修内容を実践で試してみる、自分の考えを言語化しリポートするといったように能動的に行動することで、周囲に良い影響を与えることができることを実感し、自尊心を高めていた。

(3) 看護実践を振り返った参加者の語り

研修を通して変化する自分と向き合った参加者の語りである。

参加者Aさんの語り

研修を受ける前は、倫理的に問題があると思う場面でも周囲の顔色を窺い、忖度してしまう自分がいた。環境を変えようとすると大きな反発があり、嫌な思いを過去に何度も経験した。その経験から、何の為に、誰の為に、こんな嫌な思いをして仕事をしなければならないのかと自問し、消極的になり声を上げることが出来なかった。しかし、毎回ディスカッションすることで、誰もが同じような経験し、皆悩んでいることが分かった。勇気を持つことも勿論大事だが、それ以上に仲間作りが大切で、「笑い」は、環境を変えていく大きな力となると考えた。

Aさんは、これまで倫理的問題が生じている場面を見ても、周囲の空気を読んでしまい消極的になってしまっていたが、研修で仲間とディスカッションしたことで、現状を改善するためには「勇気」をもつことの必要性を認識するとともに、倫理的職場風土の醸成には、目的を共有できる仲間づくりや環境を変える上での潤滑油であるユーモアが大きな力になると考えるようになった。

参加者Bさんの語り

倫理的職場風土の醸成には、大きなものを動かす前に小さな波をたて、波紋のように少しずつ仲間が増えるように相手を受け入れ相手にも受け入れてもらえるよう行動する。

Bさんも、職場風土を変えていくためには、一人で頑張ろうとするのではく、目的を共有できる仲間づくりこそが重要であり、そのためには相互に信頼できる関係の構築に努める必要があると考えるようになっていた。

参加者Cさんの語り

研修を通して、看護師として人としてさまざまな場面で自分は「どうあるべきか」を考え、振り返る機会が多くなった。

Cさんは、看護師、組織人、そして一人の人間として、倫理的判断を必要とされる場面において、自分自身に引き寄せ倫理的に「どうあるべきか」を考えるようになっていた。

参加者Dさんの語り

研修を受けたことで視野が広がり、患者に対するスタッフの対応にも目が行くようになり、倫理的配慮が必要な場面では、理由を伝えた上で指導することができるよう行動が変化した。

Dさんのように、今回の研修を受けて変化したことのひとつが、相手に自分の考えや思いを伝えることで、一方通行の指導ではなく対話を意識して指導方法へのシフトであった。。

(4) 5回のセッションを通して、どのような変化があったのか

本研修は計画していた時期が Covid-19 パンデミックの影響で何度も延期され、最終的には対面からリモートに変更し、パンデミック禍に実施した。リポートからは、回を追うごとに各参加者の変化を読み取ることができたが、それぞれどのような特徴があったのかを要約する。

図 1. 5 回のセッションを通してみた参加者の変化

結論

・パンデミック禍で、自由意思により参加した本研究の参加者は、高い学習ニーズをもっていた。

・緊張が高い職場の雰囲気を温かい雰囲気に変化させる上で大切な役割を果たしてくれるのがユーモアや笑いであった。笑いは伝染し、笑うことで緊張が和らぐ経験をしていた。

・主体的に学ぼうとしている参加者は、トップダウンのリーダーではなく、サーバントリーダーに高い関心を示し積極的に実践していた。

・サーバントリーダーの 10 の特性である、傾聴、共感、癒し、気づきなどは看護においても患者や同僚と関わる上で重要な要素であるが、多忙な環境の中では軽視される傾向があるが、今回は意識的にこうした特性を実践してみることで、職場の雰囲気が変わることを実感していた。
・参加者は、毎回の研修を通して自身の実践を振り返り、後輩看護師、患者、他職種との向き合い方を変えており、「行動しつつ考える」ことを意識していた。
・参加者は、各専門職の倫理綱領やガイドライン、医療倫理、リーダーシップ等について、自主的に学ぼうとしており、本研修は「教えなくても自分で学ぶ」上での動機付けとなっていた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計7件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 宮脇　美保子	４．巻 18
２．論文標題 看護におけるケアの再考	５．発行年 2018年
３．雑誌名 Keio SFC Journal	６．最初と最後の頁 120-134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 宮脇美保子	４．巻 35
２．論文標題 母性看護に置ける倫理-2つのいのち、健康、尊厳を守るために	５．発行年 2018年
３．雑誌名 東京母性衛生誌	６．最初と最後の頁 6-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 宮脇美保子	４．巻 38
２．論文標題 看護基礎教育における看護と哲学	５．発行年 2020年
３．雑誌名 日本医学哲学・倫理	６．最初と最後の頁 88-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 古田真弥子、宮脇美保子:	４．巻 38
２．論文標題 患者・家族の個別ニーズに応答する看護師のケアを支えるもの,	５．発行年 2020年
３．雑誌名 日本医学哲学・倫理	６．最初と最後の頁 31-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24504/itetsu.38.0_31	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 宮脇美保子	4．巻 570
2．論文標題 倫理を意識することで現場は変わる～看護管理職を中心に浸透させる方法～	5．発行年 2021年
3．雑誌名 看護のチカラ	6．最初と最後の頁 88-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 宮脇美保子	4．巻 27
2．論文標題 倫理的課題に向き合うことの意味	5．発行年 2022年
3．雑誌名 日本難病看護学会誌	6．最初と最後の頁 46-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Ai Matsuzaki, Mihoko Miyawaki	4．巻 9
2．論文標題 A Study of Nursing Practices of Operating Room Circulating Nurses in Japan: A Focus on Patient Support	5．発行年 2023年
3．雑誌名 Journal of Perioperative & Critical Intensive Care Nursing	6．最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　3件／うち国際学会　2件）

1．発表者名 宮脇美保子
2．発表標題 母性看護-2つのいのち、健康、尊厳を守るために ，
3．学会等名 第36回東京母性衛生学会学術集会（招待講演）
4．発表年 2018年

１．発表者名 宮脇美保子
２．発表標題 「医療倫理教育と哲学教育」
３．学会等名 第38 回医学哲学倫理学会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 秋元直子,宮脇美保子,
２．発表標題 中堅看護師の看護の再考につながった臨地実習指導の経験に関する 研究
３．学会等名 第40回日本看護科学学会
４．発表年 2020年

１．発表者名 Miyawaki M,Miyabayashi I,and Matsuzaki A
２．発表標題 The Effects of Program to Ethical Leader Training for Mid-career Nurses.
３．学会等名 Creating Healthy Work Environments Conference（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 宮脇美保子
２．発表標題 倫理的課題に向き合うことの意味
３．学会等名 日本難病看護学会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Miyabayashi I., Miyawaki M., Matsuzaki A. Takanobu, S
２．発表標題 Challenges of mid-career nurses in Covid-19 pandemic: Effectiveness of servant leadership education.
３．学会等名 3rd Edition of Singapore Nursing Research Conference（国際学会）
４．発表年 2023年

〔図書〕　計3件

１．著者名 宮脇美保子、石山麗子	４．発行年 2019年
２．出版社 中央法規出版	５．総ページ数 285
３．書名 身近な事例で学ぶケアマネジャーの倫理	

１．著者名 宮脇美保子	４．発行年 2020年
２．出版社 中央法規出版	５．総ページ数 184
３．書名 改訂 身近な事例で学ぶ看護倫理	

１．著者名 宮脇美保子	４．発行年 2021年
２．出版社 メヂカルフレンド社	５．総ページ数 323
３．書名 看護学概論	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	酒見　隆信 (SAKEMI Takanobu) (30150410)	国際医療福祉大学・福岡保健医療学部・特任教授 (32206)	
研究分担者	宮林　郁子 (MIYABAYASHII Ikuko) (40294334)	聖泉女学院大学・看護学部・教授 (33605)	
研究分担者	松嵜　愛 (MATSUZAKI Ai) (80846478)	慶應義塾大学・看護医療学部（藤沢）・講師 (32612)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関